

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2277102113		
法人名	医療法人社団 静隆会		
事業所名	グループホーム市野の家 (1, 2, 3号館 合同)		
所在地	静岡県浜松市東区市野町287-1		
自己評価作成日	平成26年1月2日	評価結果市町村受理日	平成26年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvoCd=2277102113-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvoCd=2277102113-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階		
訪問調査日	平成26年1月9日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

理念でもある【明るい笑顔 優しい対応 心のふれあいと家庭のぬくもりを大切に】を職員一人ひとりが共有し、行事や四季折々の景色を入居者様と楽しんで、悩み事や日々考えていらっしゃる事を自然な会話の中で言って頂ける関係作りをさせて頂いております。また、ご家族やキーパーソンとの連携をとり、信頼の中でケアをさせて頂けるよう心掛けております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所裏の畑には葱やブロッコリーといった季節の野菜が並び、朝食を済ませた利用者が競い合うように畑に向かう姿が日常的な風景となりました。土に親しむ生活が活力を生み出し、散歩先で率先して挨拶する利用者を介して地域との交流も広がっています。本年度は研修の趣向を変え、一方的な聴講ではなくテーマをもとに話し合うことでフィードバックが生まれ、知的探求心を育てています。なかでも医療面においては年間計画の一つだったものが毎月実施されるなど、意欲の高さが覗えます。リビングで一緒にゆっくりお茶を飲む職員に語りかける利用者の言葉と表情は穏やかで、揺るぎない信頼関係が確認できました。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るい笑顔、優しい対応、家庭のぬくもりと、心の触れ合いを大切に」という市野の家の理念を職員一人ひとりが共有し、地域の皆様との交流を大切にしていきたいと思えます。	職員の定着率も高まり、時には利用者の心配事に親身になり耳を傾ける姿も見られ、「優しい対応」、「心の触れ合い」といった場面が日々展開していることから、理念の浸透を管理者は感じています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入しておりますので、地域の行事のお祭りや敬老会にも参加させていただいております。	地域のお祭りには利用者の半数が参加し、地区敬老会へは3名の出席を果たしています。散歩途中の会話が弾んで野菜のおすそ分けもあり、職場体験に訪れた中学生とはかるたや将棋を楽しむこともあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	任意でご家族から介護の実体験を話して頂ける運営推進会議等で地域の方々と認知症の方々を理解して頂ける機会を設けております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、職員も出来る限り参加し、サービスの取り組みの発表をさせて頂いております。また、地域の方やご家族に意見やご指摘を頂ける雰囲気をつくるように心掛けております。	市町担当者、地域包括支援センター職員、前・民生委員のほか、家族も5名ほど参画しています。家族同士が在宅介護の苦労話に花を咲かせることもあり、また防災訓練協力への呼びかけもこの場から叶っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者とは定期的に連絡をしてお話させて頂き、情報交換や相談を行っています。	担当者が直接事業所に出向いてくれる機会が増え、疑問点や相談事も話しやすい関係にあります。介護相談員の受入れもあり、利用者から「また来てくれたね」との声が上がり、安心感が醸成されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束ゼロを掲げておりますので、日々の業務において絶対に拘束がないようにケアを行っております。	年間計画の研修に組み込まれて学んでいます。現時点で身体拘束が必要な状況はありませんが、建物裏にある畑に行きたいという利用者が多く、職員が対応できる時間まで玄関の自動ドア開錠を待ってもらっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	セミナーや各種講習への参加経験を基にして、常に情報交換をし、介護の質や虐待への理解向上に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者のご家族が後見人制度の手続きをされたいときには、関係機関へのご紹介や、制度の説明をさせて頂いております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明の重要性を十分に理解し、入居者様とご家族に疑問点が残らないように心がけています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での皆さんからの意見や面会に来られた際には、気兼ねなく意見を頂き、改善した点をご報告させて頂いております。	運営推進会議では新人職員の電話応対への指摘といった苦言もあり、改善に向け内部研修に取り組みました。「必要な時は協力を惜しまない」との心強い進言もあり、密な関係が形成されていることが伝わります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会を月に一回行っており、意見や質疑を交換しています。	気になることがあれば速やかにカンファレンスを行い、疑問点を調べあつて職員全員で共有しています。年に一度の個人面談では現場経験豊かな管理者に寄せられる意見も多くなっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	認知症に関しての知識を積極的に学び、意見を交換する環境を整えることにより、向上心の持てる職場を目指しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ内の研修は全員参加し、新たな情報や知識を共有する環境を整えています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との繋がりを大切にし、頻繁に意見の交換をしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の資料を基に今後、安心して生活していただける様にコミュニケーションを密にとり、より良い関係でいられるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接の段階から、安心して話していただける様気配り心配りをしてより良い関係でいられるよう努めています。また入居されてからしばらくは、細かなことでも連絡をさせて頂き、ご家族や入居者様のご要望を叶えられるよう努力しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族と共に話し合いをもって希望に添った支援ができるよう努めています。またケアプランの内容を確認して頂き、ご指摘があればスムーズに改善させて頂いております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に本人の思いを大切に思いやりをもって接するようにしています。入居者様から、働いている職員というだけではなく、人間味のある一人の人間として暮らしを共にさせて頂いております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思い、また本人の思いを、常に念頭に置き話し合いをもちながら、より良い支援ができるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブなどで出来る限り、入居者様の思い入れのある土地に触れる機会をもち、また情報を収集することで会話の中に馴染みの人や場所の話を出すように心掛けております。	親しい人との手紙のやりとりを継続したり、本人が行きたいときに自宅を見に出かけています。将棋好きの人には対局相手を探したり、また土に慣れ親しんだ人は畑作業に精を出すことが喜びとなっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合った利用者同士の関係等はより良い関係でいられるように温かく見守りをしながら支援し、一人でいたいような入居者様にもうまくアプローチし、孤立することがないように個々に合ったケアをさせて頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたあとも、何かあれば連絡を頂くように声をかけております。また実際に連絡を頂いた際には、出来る限りの御協力をさせて頂いております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声をかけ、言葉や表情の変化や印象などから、希望や意向を汲み取るように努めています。	事前のアセスメントから得る情報をもとに、無理な詮索とならないよう、寄り添いながら表出される言動で想いの把握に努めています。これらは申し送りノートに記録して共有しケアプランに反映しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り本人から聞き取りを行い、家族からも生活歴を伺い、それまでの生活になるべく近い生活リズムで生活をして頂いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活リズムを理解し、行動、言葉、表情からその人の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人からの聞き取りと家族の意向を聞き、モニタリングを参考に職員が記録した個人別介護記録を、反映させ介護計画を作成している。	3ヶ月ごとにモニタリングと見直しの機会をもち、介護記録や居室担当からの聞き取りを行って計画作成担当者とケアマネージャーがプランを作成しています。変化がある時はその都度見直しを図っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の記入を行い日々の様子を把握し、傾向や変化に気づき、それを基に職員間でしっかり、話しあうようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の代わり受診支援、緊急時の対応、個別の買い物支援を柔軟に行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺地域の機関からの協力と理解が得られるように運営推進会議などにかたりかけています。又ボランティアの方にも協力いただきふれあいコンサート等行いながら楽しんでいただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常に状態観察により、体調の把握異常の早期発見に努め、医師との連携、情報交換がスムーズにおこなわれ適切な医療を受ける事ができるよう努めています。	専門医はかかりつけ医を継続していますが、ほとんどの人が協力医に変更しています。月に一度往診があり、また週2回の訪問看護では適切な指示により早期診断とスムーズな受診に役立っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回看護師による訪問があります。その時日々の、心身の状態や情報、気づきを伝え、指示を受けながら、入居者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族医療機関との連絡を密にとり、早期退院に向けての話し合いを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、状況によりご本人やご家族の意向に添い、ターミナルケアを行う事もあります。	本年度は2件の看取りがありました。医療の必要性や本人と家族の要望を踏まえつつ、状態を見極めて都度意思を確認し、できる限りの受入れを行っています。夜間帯の心細さがありますが、件数を重ねたことで職員も落ち着いた対応ができつつあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署指導のもと、年に一度AEDを使って蘇生訓練を行っています。急変時には、各館職員が、協力、応援に入る体制を整えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害についてのマニュアルを用意し、年2回防災訓練を欠かさず行っています。	夜間想定を含め年2回の訓練を行っています。利用者参加とともに本年は地域の協力を得ることもできました。限られた支援者数での効率的な避難が課題であり、訓練の積み重ねが重要であると考えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの人格を尊重し誇りや、プライバシーを損ねないような言葉使いや支援を心がけています。	呼称は馴染みの呼び方で、一人ひとりの生活歴にあった声かけや言葉遣いで接するようにしています。表情の変化を捉え、誇りを損ねるような言動でなかったかを振り返り職員同士の会話はイニシャルトークとしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が今何をしたいのかを聞きながら、ご本人様が自己決定が出来るように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にしながら、本人の希望に沿って自由に過ごせるように支援している	職員の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや体調を大切にしながら、本人の希望に沿って自由に過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい個性を大切に身だしなみや、お洒落を楽しんで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味はもちろんの事盛り付けにも気を配っております。お好きな物聞いて日曜日のメニューに取り入れたりしています。	食材は業者配達ですが、既定メニューをアレンジすることもあり家庭らしさがあります。日曜は利用者意見に応じて、ちらし寿司や麺類が好評です。夕食の汁物は利用者担当で、食器洗いは争奪気味に人気です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お食事の摂取量や水分量を常に記録し、変化がないか気を配っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声かけ、介助、義歯の手入れを行っています。月2回の歯科の往診があります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄の習慣を把握し、トイレ誘導、声かけ、介助を入居者様ごとに行い自立に向けた支援を行っている。	自立の入には羞恥心に配慮しつつ便秘予防のため排便の有無を確認しています。パターン把握による誘導と日々暮らしの安定にともなう失敗も減って、改善に向かう傾向があります。家族の経済的負担も考慮されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便があった日はチェックし、職員間で把握して、散歩、体操など、便秘によさそうなものは、随時取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調等に注意しながら、ご本人の希望があれば、できるだけ入って頂けるように支援している。	週2日をめやすとし「今日入りたい」との恣意性にも応えています。また全身観察は早期発見につながっています。広い浴室で仲良しペアでの入浴はさらに会話が弾み、入浴が一種レクリエーションにもなっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々の居室や共有スペースのソファで、自由に休憩を取って頂き、夜間は安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師から処方された薬の目的や、副作用、用法、用量について把握し、必要な服薬支援を行い、症状の変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の出来る事、好きな事を探りながら、日々の生活の中で、役割や気分転換をして頂けるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り本人の希望に添って買い物や散歩など、外出をして頂いております。	雨の日を除いて外気浴や散歩には毎日出かけています。特に買いたいものがない時でも100円ショップやスーパーを覗くことが習慣になっています。自宅へのドライブや「誕生日にラーメンが食べたい」といった個々の声にも応えています。	外出企画がさらに充実することを期待します。例. 普段行けないような遠出の外出や職員と共に楽しめる企画



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は紛失、盗難の恐れがある為、職員が管理していますが、買い物に出かけた際には、本人に支払いをして頂くようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、電話共にいつでも、ご自由に書いたり、かけたりして頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花、植物を生けたり、掲示物にも季節感を取り入れ、1~2か月ごとに新しい掲示物に変えております。	廊下には過去のちぎり絵の大作や、行事での笑顔の写真が目を惹きます。毎朝清掃を行い利用者も取組んでいます。テーブルに飾られた花壇の花が季節を伝え、午後は職員と利用者とお茶と蜜柑でくつろぐ姿があり、まるで家族のようなぬくもりがありました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者様同士で、過ごして頂ける環境を整えたり、お1人で過ごしたい入居者様には、そのような環境を整えたりして支援をさせて頂いております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物や好みの物を持ってきて頂き、安心し居心地良く過ごせるように支援しています。	お気に入りの洋服や趣味のギター、ラジカセと好みのCD、家族の位牌、テレビの持ち込みがあります。布団干しは週に一度、床掃除は毎日あるため大変清潔です。季節によって日差しの入り込みを考慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレを示す表示や居室前の名札で、入居者様が分かるように工夫をしています。		